

共同通信社の質問にたいする書面回答

2002年9月14日

キムジョンイル

キムジョンイル総書記が共同通信社の斎田一路社長に寄せた書面インタビューの回答全文は、以下の通りです。

あなたが小泉純一郎首相のわが国への訪問を控え、書面質問を寄せたことに謝意を表します。

あなたが質問で提起した諸問題は、私と小泉首相との対面と会談で論議されるでしょうから、朝日関係に関する問題についてのみ答えることにします。

いま、世界の耳目は朝鮮に集中しており、私と日本の小泉首相との対面と会談に非常に大きな関心が寄せられています。

朝鮮と日本は地理的に近い国であり、歴史的にもはるか昔から互いに往来しながら関係を結んできました。

しかし、この一世紀のあいだ、朝日関係は不和と対立により、きわめて不正常的な状態がありました。

戦後、半世紀が過ぎても朝日関係の不正常的な関係がつづいているのは、誰にとっても、どの面からみても、百害あって一利なしです。

朝日関係を正常化し、両国間の善隣友好関係を発展させることは、両国人民の念願と利益に合うものであり、先送りすることのできない時代の要求となっています。

朝日両国は、同じアジアの国として、近くて遠い国ではなく、近くて近い隣国として、互いに仲良くし、共存共栄をはかっていくべきです。これがわれわれの意志であり、一貫した立場です。

不正常的な朝日関係を正常化することは今日、両国の政治家に負わされた歴史的使命です。

人民の念願と利益のため、歴史の前に担っている崇高な使命をまっとうするため、責任ある政治家が大局的立場から決心し取り組むならば、両国間に解決できない問題はないはずです。

近く小泉首相がピョンヤンを訪問することになりますが、これは朝日関係を正常化していくうえで画期的な契機となるでしょう。

わたしは、小泉首相のわが国への訪問を歓迎し、われわれの今回の出会いと会談が良い結実をもたらすと信じています。われわれは何とんでも、朝日関係を改善しようという共通の意志と共同の努力で、両国関係の歴史に新しいページを開いていくべきです。

朝日関係を正常化するうえで解決すべき基本問題は、両国間に存在している忌まわしい過去をきれいに清算することです。まる一世紀にわたり積みり積もった恨みの歴史をそのままにしては、国交正常化を実現できず、善隣友好関係も樹立することができません。

過去の清算のためには、日本によりわが人民が受けたあらゆる災難と被害を十分に考慮して誠実に謝罪し、補償問題も正しく解決しなければなりません。

まさにこのような基本問題がいまだに解決されていないために、両国関係は改善されず、

そのためにさまざまな複雑な問題が生じたのです。

いま、大きくない問題をもって中傷し、互いに手足が縛られています。両国関係が改善され、相互の信頼が醸成されれば、これらの問題は容易に解決されるでしょう。

朝日関係の不正常な関係が改善されれば、日本人々が憂慮している安保問題のようなものも問題となりえないでしょう。日本人々がわれわれの国防力強化にたいし、神経をとがらせているようですが、われわれの国防力は徹頭徹尾、自衛の政策です。

われわれの武装力は、われわれを侵害する者たちにたいしては無慈悲ですが、侵害しないかぎり、われわれは決して誰にも武力行使しません。日本がわれわれを敵対視せず、友好的に対するならば、われわれの国防力強化について、少しも憂慮することはありません。

終わりに、私に日本を訪問する意向があるのかという質問ですが、両国関係が正常化され、好ましく発展すれば、日本を訪問できない理由はないと思います。

この機会に、日本人民に平和と繁栄がもたらされることを願うという私のあいさつを伝えてくれるよう望みます。